

## ④ 被害状況の把握・安否確認の方法

自主防災会の本部（避難所）で、情報収集がスムーズに行えるよう、地域の被害状況の把握・住民の安否確認の方法を事前に決めておきましょう。

方法は様々なパターンがあります。どのパターンが地域の実情に合っているのか、また実施できるのか検討してみましょう。

（既に決められているところにあっては、その方法を記載してください。）

パターン	どこで	誰が	どのようにして	メリット	デメリット
1	避難所	受付担当 ほか	町（町会）別避難者名簿を活用する （避難所運営マニュアル様式集②参照）	・そのまま避難所で活用できる	・多数の住民が一度に来たときに大変 ・被害状況が詳しくわからない
2			各家庭に事前配布し記入した用紙を持ってきてもらう（様式4-1）	・各世帯の状況がわかる	・非常時に持ち出せない、忘れる ・避難所で再度必要書類を書く必要がある
3	地域の 集合場所	自主防災 部長・組 長ほか	各家庭に事前配布し記入した用紙を持ってきてもらう、又は、その場で記入してもらう（様式4-1）	・各世帯の状況がわかる	・非常時に持ち出せない、忘れる ・避難所で再度必要書類を書く必要がある
4			各家庭の状況を事前に記入してもらった用紙を部長が保有し、災害発生時に集合場所へ持っていき、その場で追記してもらう（様式4-1）	・各世帯の状況がわかる ・短時間で確認できる	・個人情報の問題、部長の責任が重い ・部長が要救助者になった場合に活用できない ・避難所で再度必要書類を書く必要がある
5			集まった世帯から用紙に記入してもらう（様式4-2）	・集計がしやすい	・どこが未確認か把握しにくい
6			地図を用いる（様式4-3）	・みんなで情報共有が可能 ・どこが未確認かすぐにわかる	・大きな地図が必要 ・誰かが地図や筆記用具を準備する必要がある
7			町内図が記載された看板を用いる （※P27「モデル学区自主防災会等の事例紹介」参照）	・みんなで情報共有が可能 ・どこが未確認かすぐにわかる ・常設されているので、準備物が少なく済む	・必ずしも看板があるとは限らない ・筆記用具等が必要
8		自主防災 部長・組 長、町内 会長ほか	町会（町内会）名簿を用いる	・普段から作成しているものなので、特に準備がいない	・部長、会長が要救助者になった場合に活用できない ・町内会に入っていない方の把握を別にする必要がある ・被害状況を別に確認する必要がある
9	その他 ( )	( )	( )	( )	( )

災害時には、高齢者や障害のある方など自力での避難等が困難な「要配慮者」に対して、地域で助け合う必要があります。平常時から、地域において、コミュニケーションを取り合い、要配慮者の把握をしておきましょう。





各世帯ごとに1枚ずつ記載するパターンの被害状況・安否確認用紙です。  
住宅地図と合わせて活用すると、地域の集合場所に来られていない未確認の世帯がわかりやすくなります。

これらの用紙を集計し、各自主防災部、ブロック別の避難状況を集計すれば、避難所での集計作業が大幅に削減できます。



## 【作成例】

(データCD参照)

様式4-1-1

様式4-1-2

【 】学区自主防災会		自主防災部 (ブロック)	
代表者			
全世帯数	世帯		
避難人数	名		
負傷者数	重傷者	名	
	軽傷者	名	
	<b>合計</b>	<b>名</b>	
被害状況	火災発生件数	件	
	倒壊家屋数	全壊	件
		半壊	件
		一部倒壊	件
<b>合計</b>	<b>件</b>		

自主防災部名	世帯数	避難人数	負傷者数		火災件数	被害状況 倒壊家屋件数		
			重症	軽傷		全壊	半壊	一部倒壊
<b>計</b>	<b>世帯</b>	<b>名</b>	<b>名</b>	<b>名</b>	<b>件</b>	<b>件</b>	<b>件</b>	<b>件</b>
			<b>計</b>	<b>名</b>		<b>計</b>	<b>名</b>	

様式4-1-3

ブロック名 ( )内は 代表者名	世帯数	避難人数	負傷者数		火災件数	被害状況 倒壊家屋件数		
			重症	軽傷		全壊	半壊	一部倒壊
( )								
( )								
( )								
<b>計</b>	<b>世帯</b>	<b>名</b>	<b>名</b>	<b>名</b>	<b>件</b>	<b>件</b>	<b>件</b>	<b>件</b>
			<b>計</b>	<b>名</b>		<b>計</b>	<b>名</b>	



被害状況・安否確認用地図 ( 町内会 組)

①	人 ( 人)
②	人 ( 人)
③	人 ( 人)
④	人 ( 人)
⑤	人 ( 人)
⑥	人 ( 人)
⑦	人 ( 人)
⑧	人 ( 人)
⑨	人 ( 人)
⑩	人 ( 人)
⑪	人 ( 人)
⑫	人 ( 人)
⑬	人 ( 人)
⑭	人 ( 人)
⑮	人 ( 人)
⑯	人 ( 人)
⑰	人 ( 人)
⑱	人 ( 人)

①	②	⑯	⑰
田	山	佐	渡
中	田	藤	辺
③山本		⑱藤田	
④西川		⑲安田	
⑤ 森		⑳黒田	
⑥ 林		㉑谷川	
⑦木村		㉒射場	
⑧岡村		㉓町田	
⑨川田		㉔奥田	
⑩	⑪	⑳	㉑
島	田	村	谷
田	村	田	村

⑫組長	ガレッジ		
⑬山川			
⑭	⑮	㉗	㉘
谷	森	斉	
田	本	藤	

⑳	人 ( 人)
㉑	人 ( 人)
㉒	人 ( 人)
㉓	人 ( 人)
㉔	人 ( 人)
㉕	人 ( 人)
㉖	人 ( 人)
㉗	人 ( 人)
㉘	人 ( 人)

避難者数
在宅避難者数
負傷者数
火災件数
建物被害件数

【凡例】

- 自力避難不能者
- 独り暮らし高齢者
- 高齢者同士
- 空き家
- 地域の集合場所

- 居住者数を記載する
- うち、負傷者数を ( ) 内に記載する
- 建物被害状況を記載する
- 在宅避難者宅には○を付ける
- 火災が発生した家には☒を付ける
- 消火できた家は、☒を×で消す
- 半壊の家には/ (斜線) を入れる
- 全壊の家には× (斜線を2本) を入れる

住宅地図と安否確認のための記載欄を合わせたもので、来られた世帯から記載していきます。みんなで1枚の地図を見るため、情報が共有しやすく、また被害状況も一目でわかります。

記載方法を統一しておけば、全自主防災部の安否確認用地図を集めて、被害状況を早く把握することが可能です。



## 【モデル学区自主防災会等の事例紹介】

- 各自主防災部に確認用の地図を備えておくことにより安否確認などをスムーズに行うことができ、有効であると思います。地図に安否確認表の内容（人員、負傷、在宅避難等）を書き込めるシンプルなものとした方がわかりやすいという意見が多くありました。
- 雨天時の仕様を考慮し、プラスチック等の材質にした方がよいと思います。
- 確認用の名簿を札にして（トリアージタグのような）自宅避難、負傷者なし、等の項目にチェックしてもらえば集計時間が短縮できないかという意見がありました。
- 確認名簿は家族全員の被災状況が明確に伝わり、個別記載のため混乱が起きにくく、後々の救助活動に役立ちます。
- 確認用の地図は、家の位置がわかり近隣住民の被災状況がわかりやすく、漏れが出にくいです。
- 要配慮者宅を把握していない自主防災部もあるので、地図に記載できれば安否確認を効率的に実施できます。
- 確認用の名簿を精査して、避難所運営マニュアルの「避難所入退所届」を一本化して併用できないかと考えています。
- 発災時に持参することは難しいと思われるので、カード形式にしたらどうか（安心カードのような）という意見が出ました。
- 地域の集合場所では、机やバインダーの準備も必要であり、確認名簿・表を作成することは難しいと思うので、一定時間を区切り避難所へ移動、避難所で安否確認を書面で行う方が現実的、効率的ではないかという意見がありました。
- 隣近所の人が集まる地域の集合場所では、声を掛け合って確認することになると思います。また、被害が大きければ大きいほど、確認用の地図への記入は不可能になってくるのではと思います。
- 共同住宅は別に安否確認表を作成しました。
- 学区内には路地や袋小路が多く、安否確認には地図が必要不可欠です。
- 地域の集合場所での安否確認等は、既存の自治会住民台帳を活用できるようにします。（今後、自治会住民台帳を変更する必要があります。）
- 自治会未加入者が多いため、地域の集合場所に避難した際には、未加入者用の受付を設けるなど区別することを考えています。
- 地域の集合場所から避難所へ避難する際、「避難済み」など何らかの看板を地域の集合場所に掲示した方が、後から避難してきた住民にわかりやすいと思います。
- 自治会で設置されているところもありますが、地域の集合場所に住宅地図のような世帯主が記載されている看板を設置し、チョークやマジックで被害状況や安否確認を追記する方法をとれば、普段から地域の集合場所であることを周知できるほか、外部の被災者に対しても避難所までの道順などを知らせることができるという意見がありました。



携帯電話のカメラ機能を使って、撮影すれば、避難所で集計することもできますね。





## II 自主防災会本部の設置

地震による被害を最小限に抑えるには、地域内の被害状況を把握し、迅速な災害対応をしなければなりません。

自主防災会本部では被害状況などの情報収集のほか、消火、救出・救護活動に協力できる住民に集まっていただき、安全かつ可能な範囲で、被害が大きく人手が足りない地域の応援に行っていただきたいと思います。

### 自主防災会本部

- 避難所の開設準備 → 避難所運営マニュアル参照
- 避難所開設のための各種団体長への連絡
- 自主防災会本部を立ち上げる
- 役割分担の確認
- その他必要事項
- 
- 



### 情報収集担当 (□)・情報処理担当 (○)

- 各自主防災部長等から避難状況・被害状況等の情報収集
  - 地域の集合場所などで記載された被害状況・安否確認票の受け取り、集計
  - 報告がない、避難所に来ない自主防災部の被害状況の確認
  - 入手した情報の整理、学区全体の被災状況、活動状況等の把握
    - ホワイトボードに記載する
      - 火災発生状況
      - 建物倒壊状況
      - 地震の情報
      - 関係機関等との情報共有
        - 【 】区役所
        - 【 】土木事務所
        - 消防署
        - 【 】学区自主防災会（隣接学区）
        - 避難者数
        - 通行できない箇所
        - 京都市、気象庁等の発表情報
- 消防団との連携活動
- その他必要事項
- 
- 



- 災害時にはうわさやデマなどの誤った情報も流れがちです。情報源を確認し、確実性の高い情報かどうか冷静に判断しましょう。
- 情報を収集する人は、いつ、どこで、どうして、どのように、誰からの報告か、必ずメモを取りましょう。不確かな情報はかえって混乱を招くことになりませんが、正しい情報を伝達、共有することで、住民の不安を和らげる効果もあります。



## 消火活動担当

- 集まった消火器やバケツなどの消火器材を1箇所に集める
- 被害が大きく、防災活動に人手が足りない自主防災部（町内会）への応援・派遣
- その他必要事項
- 
- 



- 大地震が発生すれば、火災も必ず発生します。小さな火の段階で消火できれば、大火災につながりません。初期消火を実施することは非常に重要です。
- 木造家屋が密集しているところなど、火災が起こったら被害が拡大するおそれがある地域では、消火活動を最優先で行います。
- 気付かない間に火災に取り囲まれ、大火災に発展していることがあるので、必ず周囲を確認する方を配置しましょう。



## 救出・救護活動担当

- 防災器材格納庫から防災器材を取り出し、集まった器材を1箇所に集める
- 被害が大きく、防災活動に人手が足りない自主防災部（町内会）への応援・派遣
- その他必要事項
- 
- 



## 応急救護所活動担当

- 応急救護所の設置、必要器材の準備
- 医療機関へ搬送する必要がある方の搬送
- その他必要事項
- 
- 



- 軽症の方、自力又は地域住民の協力で医療機関へ行くことが可能な方は、地域で対応します。病院などの医療機関がどこにあるのか確認しておきます。
- 応急救護所では元看護師の方や、地域内の医院の医師など、応急手当ができる方に活動してもらいましょう。応急救護所で活動できる方には、日頃から依頼しておき、防災訓練に参加してもらいましょう。どこにどのように設置するか検討しておきましょう。
- 応急担架で搬送する場合、4人の人手が必要です。さらに、交代要員としてあと1人は付き添いましょう。

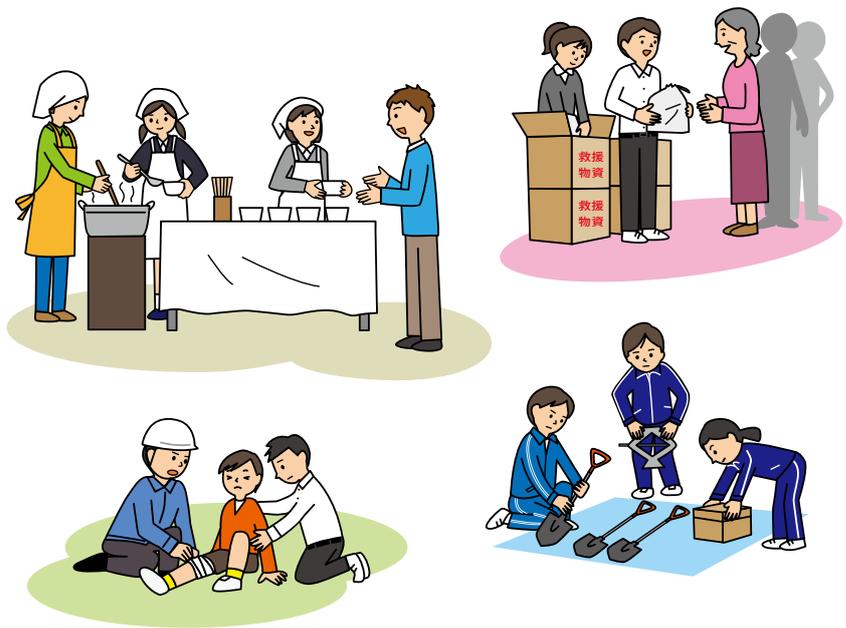


## 避難所

- 防災活動が収束すれば避難所の運営へ  
その他必要事項
- 
- 
- 

## その他

- その他必要事項
- 
- 
- 
- 



### 【児童、生徒、学生の防災行動について】

学校の就学時間内に、地震などの災害が発生した場合は、それぞれの学校ごとに児童、生徒、学生への対応を決めています（保護者の引き取り、集団下校など）。

平成23年に発生した東日本大震災では、帰宅することができない、また自宅が被災し避難所で生活する生徒、学生さんたちが、避難所において、炊き出しや物資の配給、要配慮者の避難支援など様々な防災活動を実施してくれました。

中学生以上になれば、自主防災会の一員として活動することが十分可能です。

京都市でも、災害発生時には避難所となる中学校、高等学校、大学で、生徒、学生さんが多数残っている可能性が考えられます。

これらの施設において、防災訓練や避難所運営訓練を実施し、地域と学校の連携を図るとともに、生徒、学生の皆さんに参加してもらうことで、どのような防災活動ができるのかを考えてもらい、いざというときに活動できる人づくりを進めましょう。

また、小学校で実施する防災訓練などにも、積極的に参加してもらいましょう。



チェックした項目、追記した項目を次のページに書き出してみましよう。  
自主防災会防災行動マニュアル（地震）の文章の完成です。

## 〇〇学区自主防災会 防災行動マニュアル(地震)

### 1 自主防災会本部を設置するとき

- 
- 
- 
- 
- 

### 2 発災直後の対応(初動措置)

- 
- 
- 
- 
- 

### 3 自主防災会本部の設置

- 
- 
- 
- 
- 

### 4 情報収集, 情報処理

- 
- 
- 
- 
-

5 消火活動

- 
- 
- 
- 
- 

6 救出・救護活動

- 
- 
- 
- 
- 

7 応急救護所活動

- 
- 
- 
- 
- 

8 その他

- 
- 
- 
- 
- 

● 添付資料

1 防災マップ  
4 役割分担表

2 緊急連絡網  
5 防災器材一覧表

3 自主防災部名一覧  
6 情報伝達文



作ってみたら  
こんな感じに  
なります。

## みやこ学区自主防災会 防災行動マニュアル(地震)

### 1 自主防災会本部を設置するとき

- 京都市内に震度5強以上の地震が発生したとき
- 学区内に地震による被害が発生し、避難者が出たとき

### 2 発災直後の対応(初動措置)

- 自分の身を守るなど、各自の初動措置をとる
- 家族の安否確認、隣近所に声を掛けて地域の集合場所へ移動する  
(役員は自分自身が無事であること、避難所へ向かうことを伝える)
- 役員は避難所(自主防災会本部を立ち上げる場所)へ移動する
- 必要物品を持っていく(防災行動シートで確認する)

### 3 自主防災会本部の設置

- 避難所の開設準備をする → 避難所運営マニュアル参照
- 避難所開設のための各種団体長へ連絡する
- 自主防災会本部を立ち上げる → 必要物品準備(防災行動シートで確認する)
- 役割分担を確認する

### 4 情報収集(□), 情報処理(○)

- 各自主防災部から安否確認表を受け取り、避難状況・被害状況等の情報を収集する
- 3時間たっても報告がない、避難所に来ない自主防災部の被害状況を確認する  
(防災活動に協力できる住民の中から確認に行ってもらおう)
- 入手した情報を整理して、学区全体の被災状況、活動状況等をホワイトボードと地図に記載する
  - 火災発生状況      ○ 負傷者数      ○ 避難者数
  - 建物倒壊状況      ○ 通行できない箇所
  - 地震の情報      ○ 京都市、気象庁等の発表情報
- 関係機関等との情報を共有する。(電話番号は緊急連絡網で確認)
  - 【    】区役所      ○ 【    】消防署      ○ 【    】警察署
  - 【    】土木事務所      ○ 【    】学区自主防災会(隣接学区)
- 被害があれば、消防団に連絡し連携して活動する

## 5 消火活動

- 集まった消火器やバケツなどの器材を1箇所に集める
- 被害が大きく、防災活動に人手が足りない自主防災部（町内会）へ、防災活動に協力できる住民で応援に行く
- 現在の活動や、被害状況について情報処理担当に報告し、情報を共有する
- あらゆる手段で消防団、消防署員に連絡し、消火活動を実施してもらう
- 火に囲まれて、逃げ道をふさがれないように必ず見張りを付ける

## 6 救出・救護活動

- 防災器材格納庫から防災器材を取り出し、集まった器材と一緒に1箇所に集める
- 被害が大きく、防災活動に人手が足りない自主防災部（町内会）へ、防災活動に協力できる住民で応援に行く
- 現在の活動や、被害状況について情報処理担当に報告し、情報を共有する
- あらゆる手段で消防団、消防署員に連絡し、救助活動を実施してもらう

## 7 応急救護所活動

- 応急救護所をみやこ小学校保健室に設置する
- 必要器材を準備し、集まった器材と一緒に保健室に集める
- 応急救護所で応急処置を実施する
- 医療機関へ搬送する必要がある負傷者を、使える手段を用いて搬送する  
近い順 ① みやこ医院 ② みやこ診療所 ③ みやこ総合病院  
方法 ① 車 ② リヤカー ③ 応急担架 ④ 車いす ⑤ おんぶ

## 8 その他

- みやこ中学校には自主防災会副本部を設置し、副会長をリーダーとする
- 中学校の生徒が学校に残っている場合は、学校内での防災活動に協力してもらうようお願いする
- 配慮を要する住民が避難されれば、避難所運営協議会に対応をお願いする
- 火災が拡大し危険なときは、安全なルートを通して広域避難場所〔都川河川敷〕へ避難する

## 添付資料

防災マップ、緊急連絡網、自主防災部名一覧、役割分担表、防災器材一覧表、情報伝達文

## 6 防災行動シートの作成

(データCD参照)

防災行動マニュアル地震編ができれば、役員の皆さんが災害発生時に慌てずに行動ができるよう、また、マニュアルを読まなくても活動ができるよう、フローチャート図やチェックシートタイプの防災行動シートを作成しましょう。作成例を参考に、地域の実情に応じた、使いやすいものが作成できれば、防災行動マニュアル地震編の完成です。

### 【作成例1】

実施すべき事項、役割分担、必要物品、避難所の開設基準、情報伝達文など全てを1枚で掲載したパターン。文字が小さくなるのが難点



様式6-1-1

### みやこ学区 自主防災会長（本部役員含む） 防災行動シート【地震】

地震発生  
(初動動)

避難所を開設するときは

- 震度5強以上
- 学区内に被害が発生

火災が拡大し危険なときは  
都川河川敷へ避難!!

<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 身の安全を確保する</li> <li><input type="checkbox"/> 素早く火の始末をする</li> <li><input type="checkbox"/> 出口の確保</li> <li><input type="checkbox"/> 家族の安否確認をする</li> <li><input type="checkbox"/> 隣近所の被害確認</li> <li><input type="checkbox"/> 余震に注意し、正しい情報を収集する</li> <li><input type="checkbox"/> ブレーカーを切る</li> <li><input type="checkbox"/> ガスの元栓を閉める</li> <li><input type="checkbox"/> 避難の準備をし、必要物品を持つ（※1）</li> <li><input type="checkbox"/> 避難に支援の必要な方への声掛け</li> </ul>	<p>地域の集合場所 <input type="checkbox"/> 無事であることを伝え避難所へ移動</p>
--	--

担当	氏名・役職	氏名・役職
情報収集・処理担当	会長	副会長1
消火担当	事前に記載	事前に記載
救出・救護担当	事前に記載	事前に記載
応急救護所担当	事前に記載	事前に記載

みやこ小学校

- 避難所開設準備
- 避難所開設のための各種団体長への連絡
- 自主防災会本部の立ち上げ
- 役割分担の確認

情報収集担当（ ） ・ 情報処理担当（ ）

- 各自主防災部長等から避難状況・被害状況等の情報収集
- 報告がない、避難所に来ない自主防災部の被害状況の確認
- 入手した情報の整理、学区全体の被災状況、活動状況等の把握
- 区役所等関係機関との情報共有
- 消防団との連携活動
- その他

消火活動担当（ ）

救出・救護活動担当（ ）

- 防災器材格納庫からの防災器材取り出し・集まった器材を集める
- 被害が発生し、防災活動に人手が足りない自主防災部（町内会）への応援
- その他

応急救護所担当（ ）

- 応急救護所の設置
- 医療機関へ搬送する必要がある方の搬送
- その他

活動が収束すれば  
避難所運営へ

必要物品（※1）

<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 名簿</li> <li><input type="checkbox"/> 筆記用具</li> <li><input type="checkbox"/> 緊急連絡網</li> <li><input type="checkbox"/> 携帯電話</li> <li><input type="checkbox"/> 避難所の鍵</li> <li><input type="checkbox"/> 軍手・皮手</li> <li><input type="checkbox"/> ホイッスル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> ラジオ</li> <li><input type="checkbox"/> 自主防災会標旗</li> <li><input type="checkbox"/> メガホン</li> <li><input type="checkbox"/> 懐中電灯</li> <li><input type="checkbox"/> レインコート</li> <li><input type="checkbox"/> ヘルメット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 非常持出袋</li> <li><input type="checkbox"/> 飲料水</li> <li><input type="checkbox"/> 食料</li> <li><input type="checkbox"/> ライター</li> <li><input type="checkbox"/> マッチ</li> <li><input type="checkbox"/> 電池</li> <li><input type="checkbox"/> 携帯トイレ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 消火用具</li> <li><input type="checkbox"/> 消火器</li> <li><input type="checkbox"/> 水バケツ</li> <li><input type="checkbox"/> 救出用具</li> <li><input type="checkbox"/> ハール</li> <li><input type="checkbox"/> ジャッキ</li> <li><input type="checkbox"/> シャベル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> その他</li> <li><input type="checkbox"/></li> <li><input type="checkbox"/></li> <li><input type="checkbox"/></li> <li><input type="checkbox"/></li> <li><input type="checkbox"/></li> <li><input type="checkbox"/></li> </ul>
---	---	---	---	--

その他の避難所開設担当

みやこ中学校…副会長2・自治連合会  
(学校 \*\*\*\*-\*\*\*\*)

(会長携帯 090-\*\*\*\*-\*\*\*\*)

(副会長携帯 090-\*\*\*\*-\*\*\*\*)

【作成例2】

避難所の開設基準，実施すべき事項を時系列に1枚で掲載したパターン。文字も読みやすくなりますが，記載事項を絞る必要があります。



様式6-1-2

みやこ学区 自主防災会長（本部役員含む）

防災行動マニュアル【地震編】

災害が起こったときは以下の要領で行動を！



震度5弱以上の地震が発生した場合→避難所を開設  
（\*みやこ小学校ふれあいホールに自主防災会本部設置）

地震発災時（普段から確認しておくこと）	
<input type="checkbox"/> 自分の身の安全の確保	まず，生き残る！怪我をしないこと！
<input type="checkbox"/> 火の始末	
<input type="checkbox"/> 出口の確保	
地震発災直後	
<input type="checkbox"/> 家族の安否確認	<input type="checkbox"/> 非常持出袋を持つ
<input type="checkbox"/> 避難所の開設の判断（震度5弱以上もしくは学区内に被害が発生し，被災住民への支援が必要な場合）	<input type="checkbox"/> 避難所開設に必要な物品を持つ ※欄外参照
	<input type="checkbox"/> 隣近所の被害確認
<input type="checkbox"/> ガスの元栓を閉める	<input type="checkbox"/> 地域の集合場所へ（無事を伝え早期に避難所へ）
<input type="checkbox"/> 電気のブレーカーを切る	<input type="checkbox"/>
避難所開設前に実施すること	
<input type="checkbox"/> 自主防災会本部の立ち上げ	<input type="checkbox"/> 地震に関する情報収集
<input type="checkbox"/> 自主防災会役員の安否確認	<input type="checkbox"/> 学区内の災害に対する応援要請への準備 （避難住民で防災活動に協力できる人数を把握）
<input type="checkbox"/> 避難所の確認（使用の可否等）	
<input type="checkbox"/> 役割分担の確認	<input type="checkbox"/> 防災器材格納庫から器材準備
<input type="checkbox"/> 学区内の被害状況の把握	<input type="checkbox"/> 避難所の開設（避難所運営マニュアルへ）

みやこ学区 避難所

①みやこ小学校

②みやこ中学校

（避難者数が，みやこ小学校の許容を超えた場合，自主防災会の判断で開設）

※ 避難所開設に必要な物品

- |                                |                                  |
|--------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 避難所の鍵 | <input type="checkbox"/> 筆記用具    |
| <input type="checkbox"/> 名簿    | <input type="checkbox"/> ラジオ     |
| <input type="checkbox"/> 緊急連絡網 | <input type="checkbox"/> 自主防災会標旗 |
| <input type="checkbox"/> 携帯電話  | <input type="checkbox"/> 懐中電灯    |

【作成例3】

実施すべき事項を時系列に複数枚で掲載したパターン。文字も読みやすくなりますが、枚数が多くなります。



様式6-1-3

みやこ学区 自主防災会長（本部役員含む）

### 地震編 行動シート



身の安全の確保を1番に  
(まず、生き残る！怪我しないこと！)

### 地震発災直後

- 家族の安否確認
- 避難所開設の判断



震度5弱以上  
住民への支援が必要

開設へ

### 必要物品の確認

- ① 避難所の鍵
- ② 連絡網・名簿
- ③ ラジオ
- ④ 筆記用具



- ⑤ 携帯電話



- ⑥ 懐中電灯



- ⑦ 非常持出袋



### 家を出る前に

- ブレーカーを切る
- ガスの元栓を閉める
- 必要物品を持つ



### 地域の集合場所へ

- 隣近所の被害を確認
- 無事を伝え先に避難所へ



### 避難所開設前に①

- 自主防災会本部の立ち上げ
- 役員の方の安否確認
- 学区内の被害状況の把握
- 避難所の確認（使用の可否）

### 避難所開設前に②

- 役割分担の確認
- 消火活動等の応援要請の準備
- 防災器材の準備
- 避難所開設準備

Memo